

# 1 人口動態

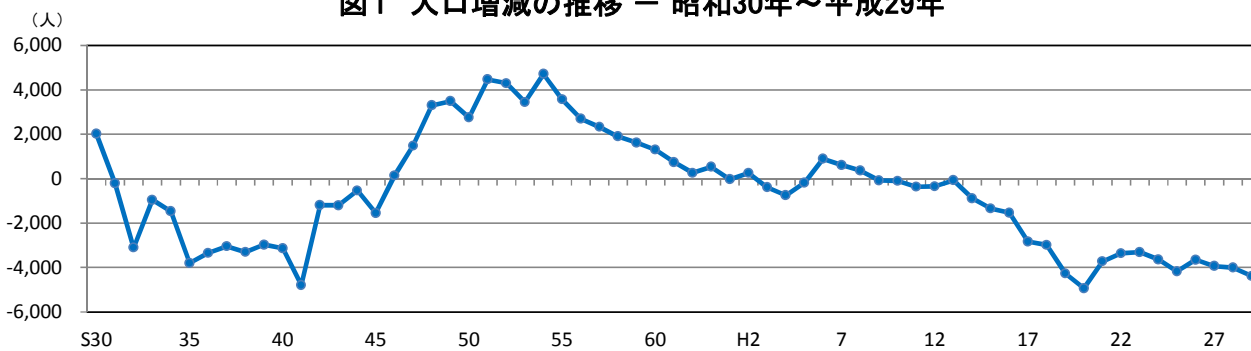
## 人口増減の推移

前年に比べ4, 385人減少し、21年連続の減少となった。

平成29年（1月～12月）の1年間の人口動態をみると、自然動態は3,221人減、社会動態は1,164人減、合計4,385人の減少となり、前年と比べると、減少数が378人に拡大した。

人口減少は、平成9年以降21年連続しており、平成14年以降は、自然動態、社会動態とも16年連続で減少している。（図1、統計表第1表）

図1 人口増減の推移 — 昭和30年～平成29年



※各年の数値は1月～12月の集計による

## 2 自然動態

### (1) 自然動態の推移

前年に比べ3, 221人減少し、出生数は過去最少で、死亡数は過去最大となった。

自然動態について、出生数は昭和30年（11,901人）以降減少傾向となり、平成7年以降は5,000人台、平成20年からは4,000人台となり、平成29年は4,329人で前年と比べ130人減少した。

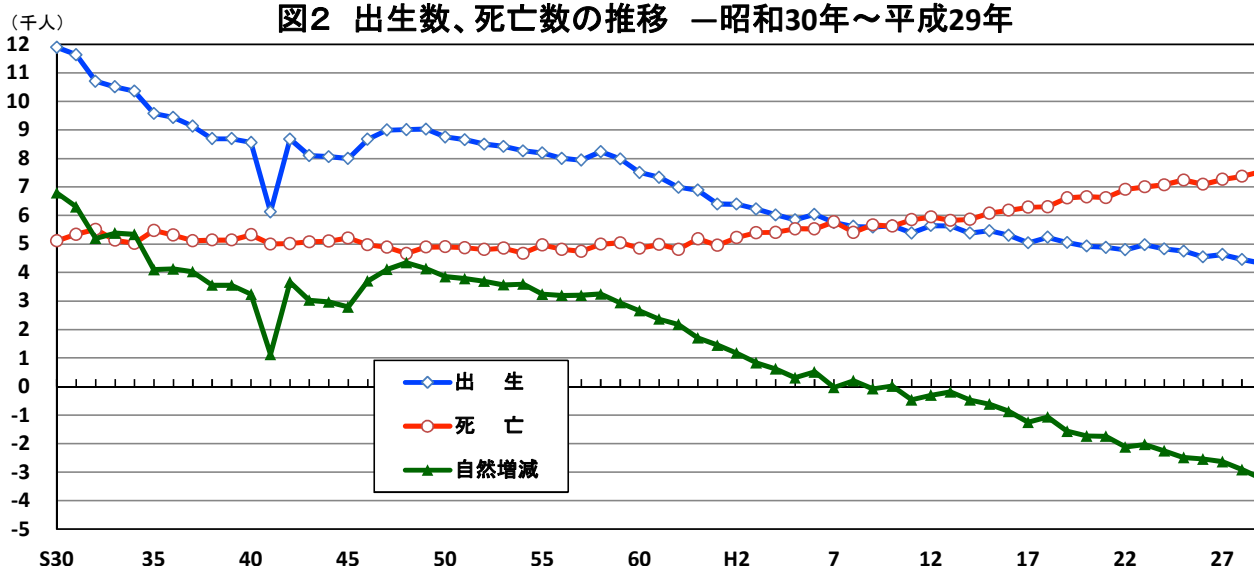
死亡数は、平成2年ごろまでは5,000人前後を推移していたが、それ以降は増加傾向となっている。平成15年からは6,000人台、平成23年からは7,000人台となり、平成29年は7,550人で前年と比べ175人増加した。

自然増減は3,221人の減少で前年と比べ減少数は305人拡大し、19年連続で減少した。

また、昭和30年以降、出生数は過去最少で、死亡数は過去最大となり、自然減少は過去最大となった。

（図2、統計表第1表）

図2 出生数、死亡数の推移 — 昭和30年～平成29年



※各年の数値は1月～12月の集計による

(2) 市町村別自然動態

日吉津村を除くすべての市町で減少

自然動態について市町村別にみると、日吉津村を除くすべての市町で減少している。

自然増減数は日吉津村が14人増加、減少数は鳥取市が844人と最も多く、次いで米子市が409人、倉吉市が290人、境港市が224人などとなっている。

自然増減率(対1,000人比)は日吉津村が4.0%増加、その他の市町は減少で、日野町が25.2%と最も高く、次いで日南町が21.3%、若桜町が19.5%、江府町が16.6%などとなっている。(図3、図4、統計表第2表)

図3 市町村別自然増減数—H29.1～H29.12

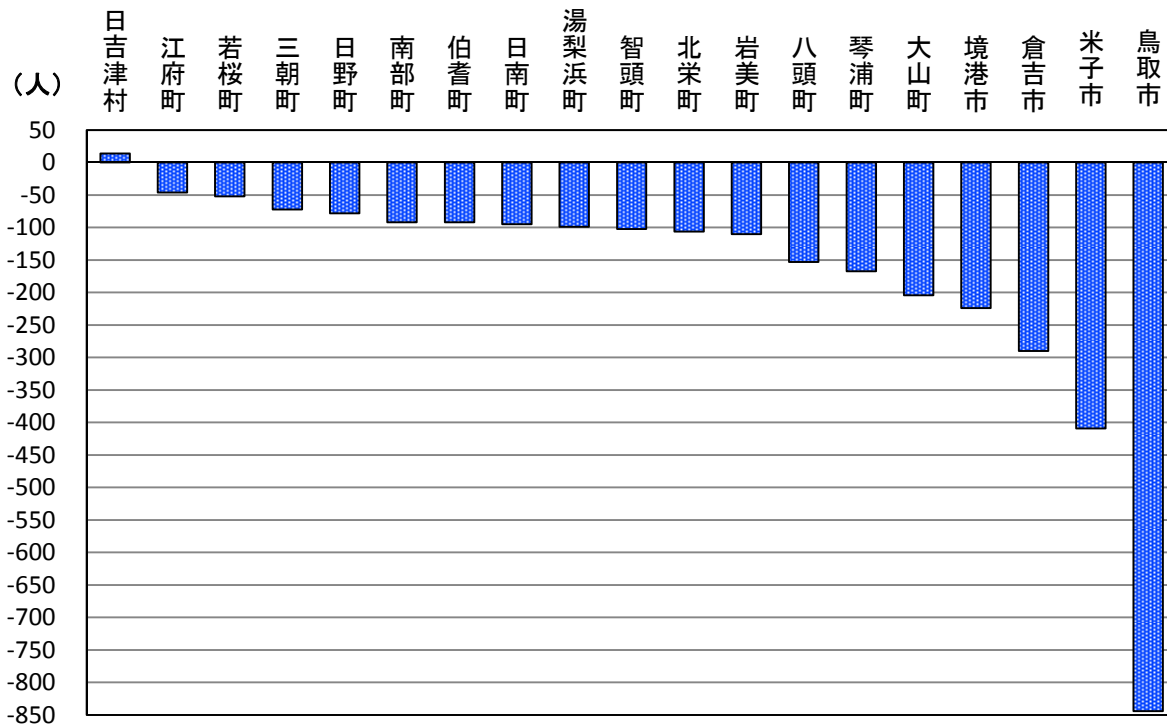
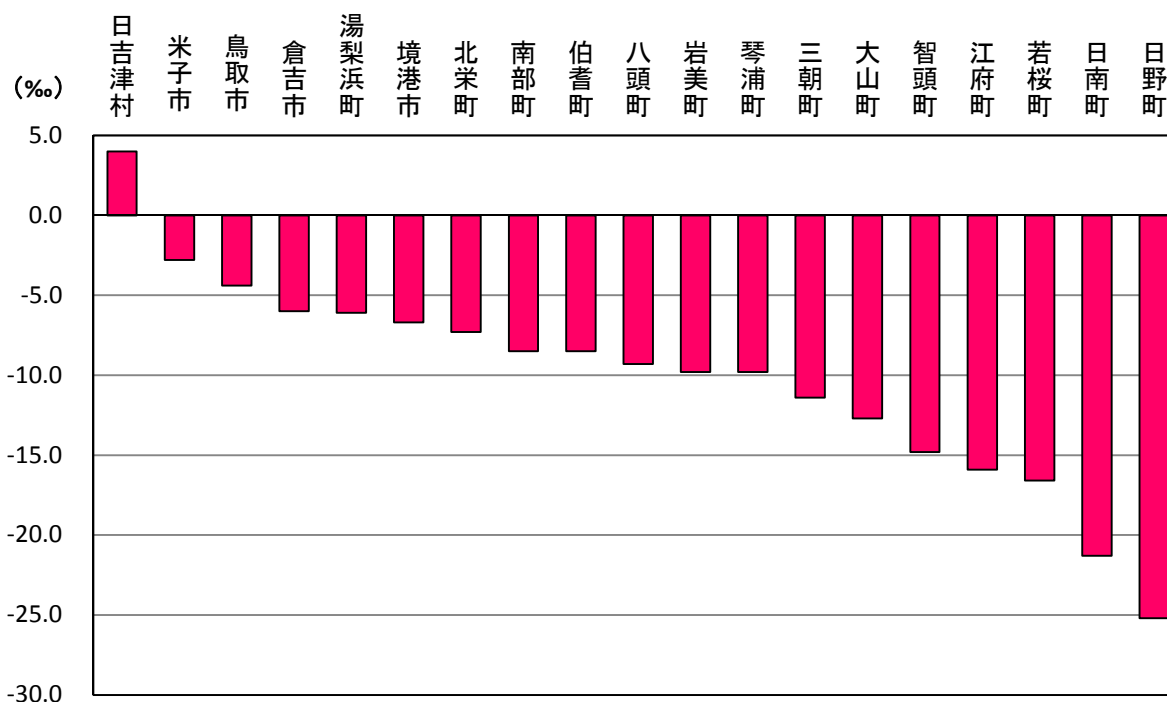


図4 市町村別自然増減率—H29.1～H29.12



### (3) 月別自然動態

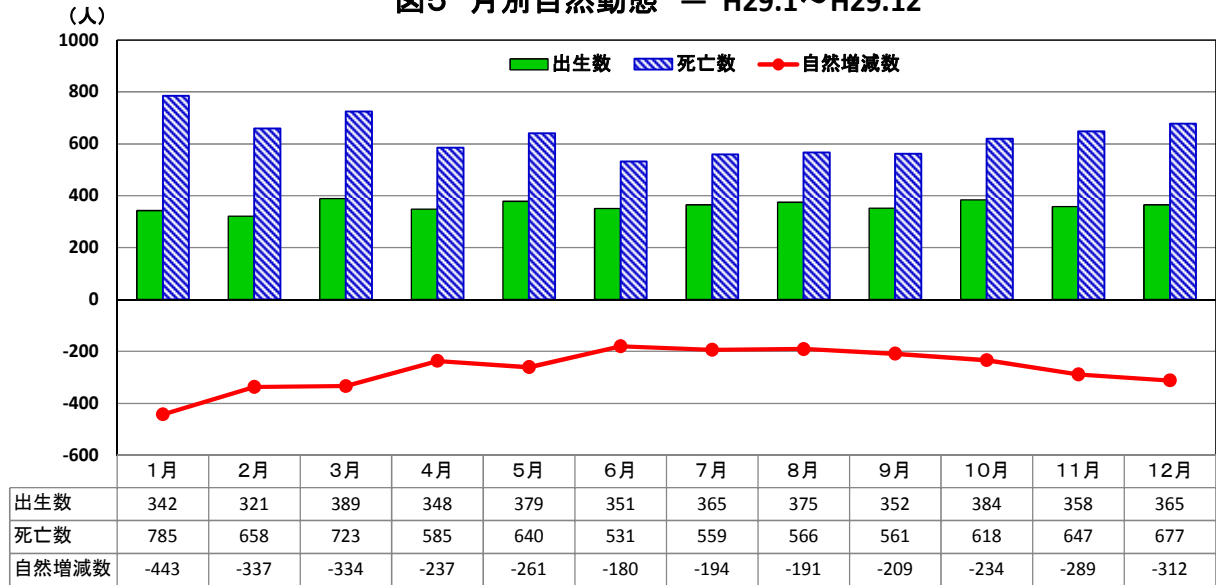
#### すべての月で減少となり、1月の減少数が最も多い

自然動態について、月別にみると、出生数は3月が389人（出生総数に占める割合9.0%）と最も多く、次いで10月が384人（同8.9%）、5月が379人（同8.8%）などとなっている。

死亡数は1月が785人（死亡総数に占める割合10.4%）と最も多く、次いで3月が723人（同9.6%）、12月が677人（同9.0%）などとなっている。

すべての月で減少となり、減少数は1月が443人と最も多かった。（図5、統計表第3表）

図5 月別自然動態 — H29.1~H29.12



## 3 社会動態

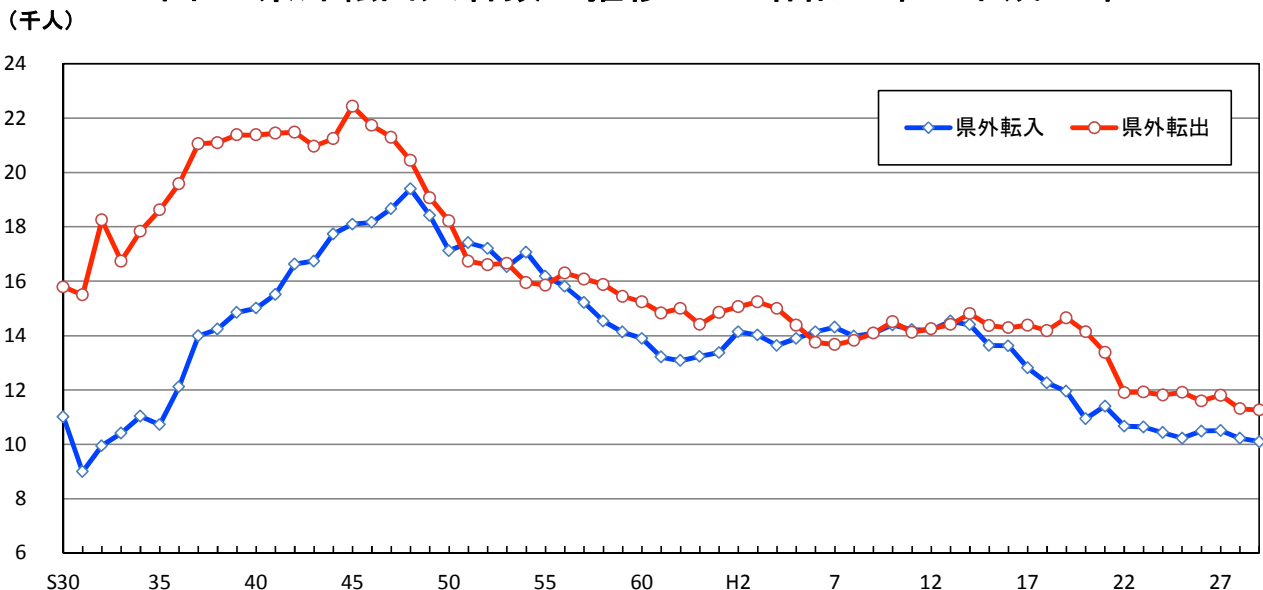
### (1) 社会動態の推移

#### 前年に比べ1, 164人減少し、16年連続の減少となった。

平成29年（1月～12月）に県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は6,279人、県外転入者は10,094人、県外転出者は11,258人で県外転入者及び県外転出者とも昭和30年以降最小となり、実移動者総数は27,631人で、1,164人の減少となり、16年連続で減少している。

前年と比べると、県内移動者が93人減少、県外転入者が127人減少、県外転出者が54人減少、実移動者総数が274人減少、減少数が73人に拡大した。（図6、図7、統計表第1表、第4表、第5表）

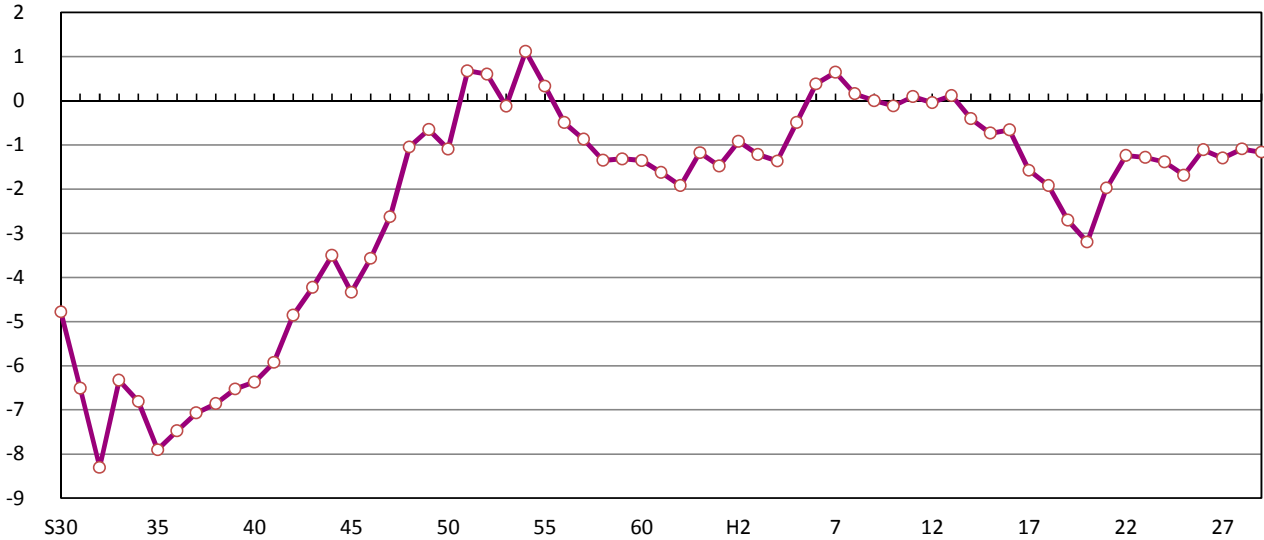
図6 県外転出入者数の推移 — 昭和30年～平成29年



※各年の数値は1月～12月の集計による

図7 社会増減数の推移 — 昭和30年～平成29年

(千人)



※各年の数値は1月～12月の集計による

(2) 月別社会動態

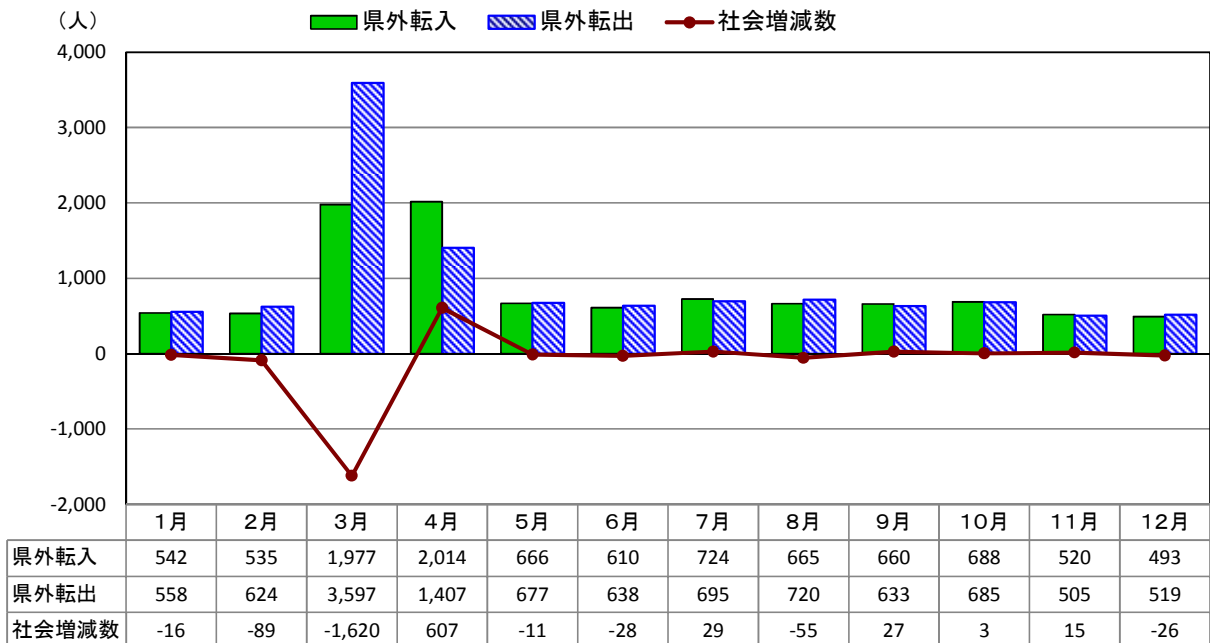
3月及び4月の2か月間で、年間実移動者総数の41.2%を占める

社会動態について、月別にみると、県外転入は4月が2,014人(県外転入総数に占める割合20.0%)と最も多く、次いで3月が1,977人(同19.6%)、7月が724人(同7.2%)などとなっている。

県外転出は3月が3,597人(県外転出総数に占める割合32.0%)と最も多く、次いで4月が1,407人(同12.5%)、8月が720人(同6.4%)などとなっている。

この結果、4月が607人増加し、3月は1,620人減少し、この2か月間で年間実移動者総数の41.2%を占めている。(図8、統計表第5表)

図8 月別県外転出入者数 — H29.1～H29.12



### (3) 地域別社会動態

**県外転出入者数は島根県が最多で、転入が1,298人、転出が1,345人**

社会動態について、地域別（都道府県別）にみると、県外転入は島根県が1,298人と最も多く、次いで大阪府が1,025人、兵庫県が871人、岡山県が869人、広島県が803人、東京都が653人などとなっている。

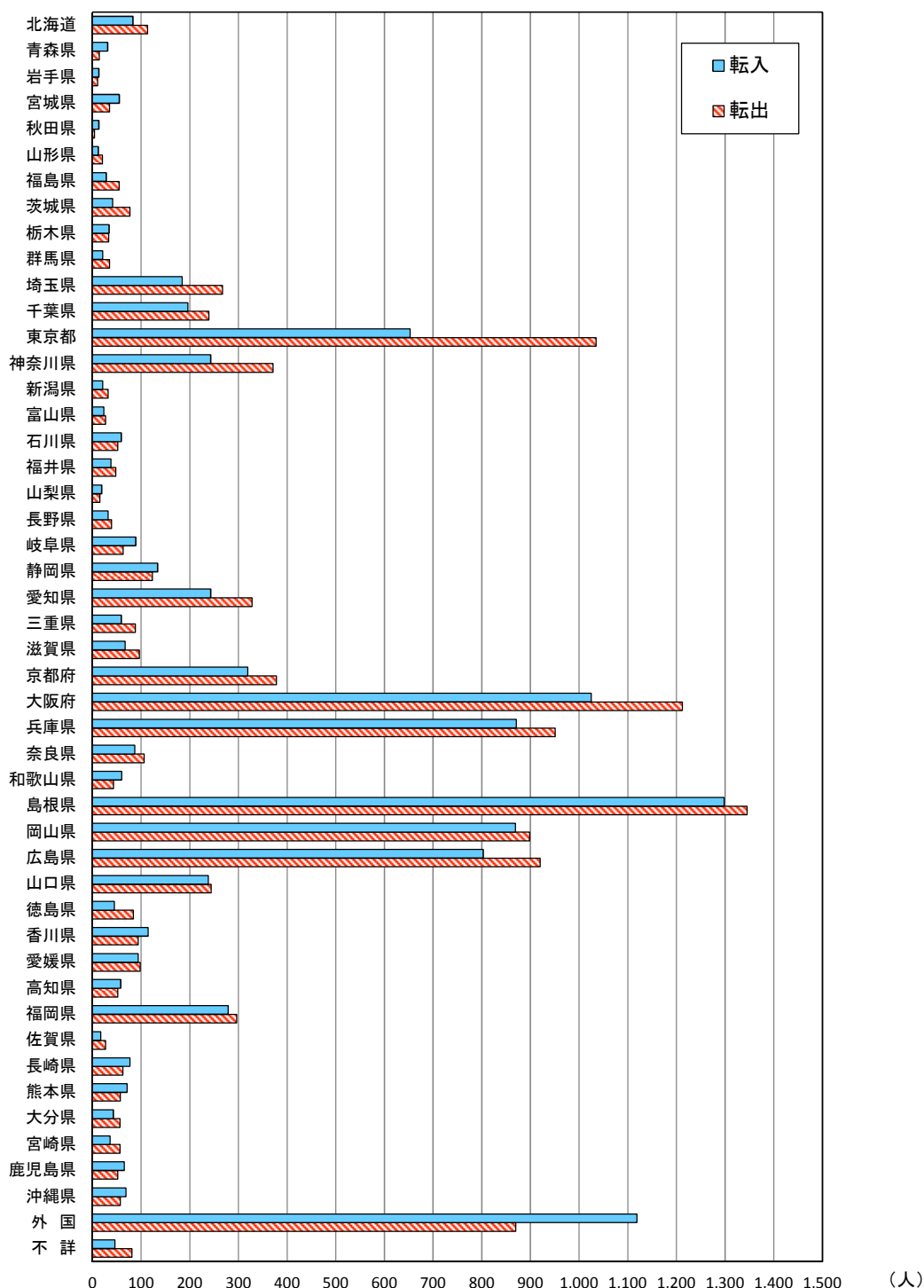
県外転出は、島根県が1,345人と最も多く、次いで大阪府が1,212人、東京都が1,035人、兵庫県が951人、広島県が920人、岡山県が898人などとなっている。

この結果社会増減数は、岐阜県が26人増加と最も多く、次いで宮城県と香川県が20人、青森県と和歌山県が17人などとなっている。

一方、減少数については、東京都が382人と最も多く、次いで大阪府が187人、神奈川県が128人、広島県が117人、愛知県が85人などとなっている。

外国をみると、転入が1,119人、転出が870人で249人増加となっている。（図9、統計表第6表）

**図9 地域別県外転出入者数—H29.1～H29.12**



#### (4) 年齢5歳階級別社会動態

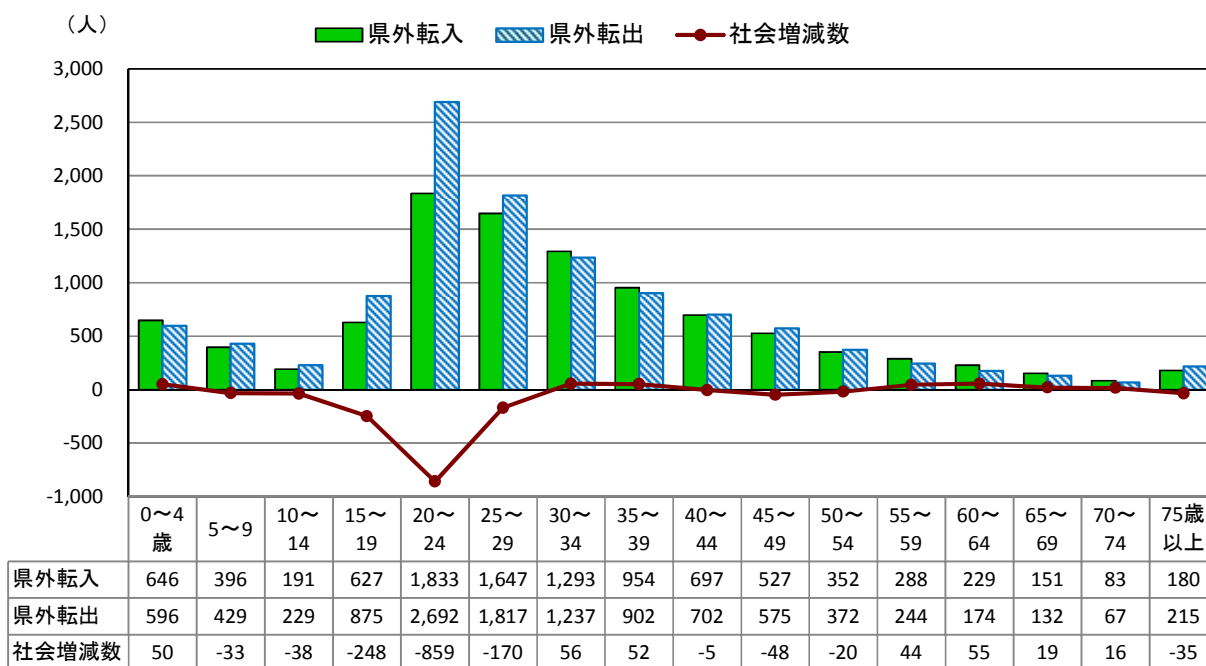
##### 30～34歳が増加し、20～24歳が最も減少

社会動態について、年齢5歳階級別にみると、県外転入は20～24歳が1,833人（県外転入総数に占める割合18.2%）と最も多く、次いで25～29歳が1,647人（同16.3%）、30～34歳が1,293人（同12.8%）などとなっている。

県外転出は、20～24歳が2,692人（県外転出総数に占める割合23.9%）と最も多く、次いで25～29歳が1,817人（同16.1%）、30～34歳が1,237人（同11.0%）などとなっている。

この結果、30～34歳が56人増加し、20～24歳が859人と最も減少、20～34歳で年間実移動者総数の48.9%を占めている。（図10、統計表第7表）

図10 年齢5歳階級別県外転出入者数—H29.1～H29.12



#### (5) 市町村別社会動態

##### 岩美町、湯梨浜町及び日吉津村で増加し、その他の市町では減少

社会動態について、市町村別にみると、岩美町、湯梨浜町及び日吉津村で増加し、その他の市町では減少となっている。

湯梨浜町が47人と最も減少し、次いで岩美町が25人、日吉津村が18人となっている。減少数については鳥取市が326人と最も多く、次いで倉吉市が293人、八頭町が136人などとなっている。

社会増減率は日吉津村が5.1%と最も高く、次いで湯梨浜町が2.9%、岩美町が2.2%となっている。

減少率については日南町が20.6%と最も減少し、次いで江府町が11.1%、八頭町が8.3%、若桜町が8.0%などとなっている。（図11、図12、統計表第4表）

图11 市町村別社会増減数—H29.1~H29.12

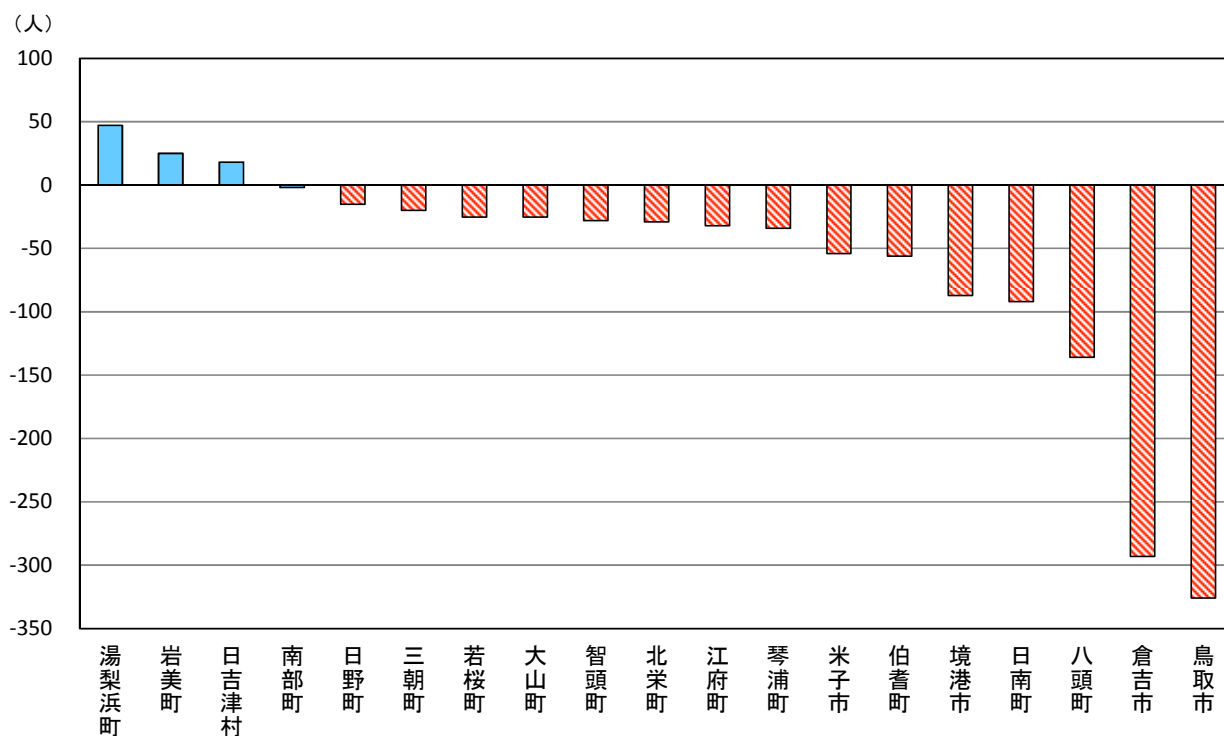


图12 市町村別社会増減率—H29.1~H29.12

